

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

| | 国語 | | 算数 | | 理科 | |
|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 5年時 | 6年時 | 5年時 | 6年時 | 5年時 | 6年時 |
| H29 入学 現6年生 | 県 (12月) | 全国 (4月) | 県 (12月) | 全国 (4月) | 県 (12月) | 全国 (4月) |
| | 59.9 | 66 | 44.2 | 65 | | 63 |
| | (1.03) | (1.03) | (1.04) | (1.05) | | (1.02) |
| R4 正答率の全国比 | 1.01 | | | 1.03 | | 1.00 |

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに全国平均・県平均を上回り、理科は全国平均とほぼ同等である。
- 算数と理科の学習を好きな児童が多いが、国語の学習はあまり好きではないと半数以上が回答している。
- 国語については、「読むこと」「書くこと」の正答率が高いが、「話すこと・聞くこと」は正答率が著しく低い。
- 算数については、領域別でみると「変化と関係」、評価の観点別にみると「思考・判断・表現」の正答率が低い。
- 理科については、「エネルギー」を柱とする領域や「地球」を柱とする領域の正答率が低い。
- 三教科ともに無回答率が低く、できそうなことはあきらめないでやり通すことはできるが、自己肯定感の低い児童が多く、難しいことや失敗しそうなことに対しては挑戦することを避けてしまう傾向にある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 国語では、話す場面や聞く場面において、明確で児童がつかみやすいめあてを提示することにより、児童が迷うことなく学習活動に取り組み、確実な習得につながるようにする。
- 算数では授業の「考える」段階で言葉を使って説明する時間を確保し、「考え合う」段階で多くの説明の仕方に触れさせ、再度自分で説明する時間を設ける。
- 理科では、実際の実験・観察に合わせ、タブレット端末を活用し、幅広くより深い探求ができる場を持つ。
- 自分の考え等を発表する機会を多く設け、自信をつける機会にする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- これまで以上に帰りの会などでスピーチする場面を設け、そのテーマやスピーチ形態等を工夫する。
- 家庭学習において、各教科について身に付けさせたい内容の課題を意図的に設定し、継続して取り組ませる。
- 児童が活躍できる場を精選し、一人一人が挑戦できる場を設定し、様々な児童にチャレンジさせる機会を持つ。
- 学校生活の様々な場面で、全校児童の前に立って発表する機会をつくり、やり遂げさせるようにする。できる限り称賛し誉めて自信を持たせていく。